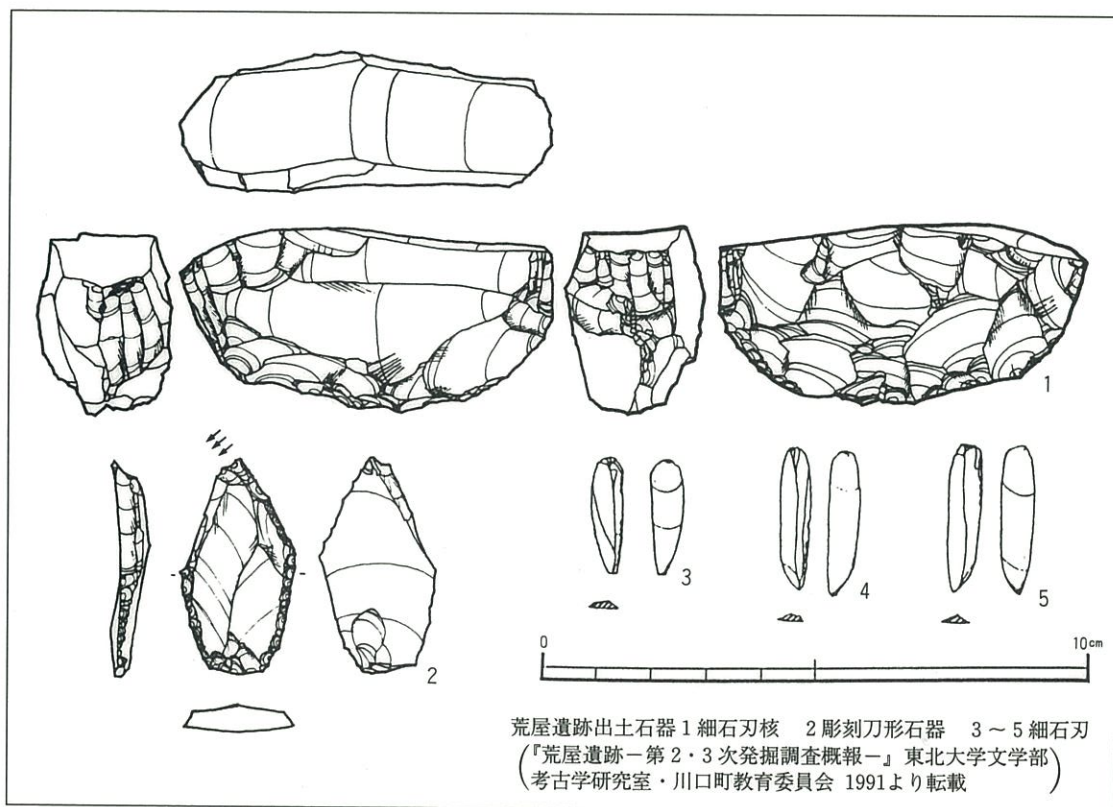


県内の遺跡4 ^{あらや} 荒屋遺跡

所在地 北魚沼郡川口町大字西川口字荒屋

信濃川と魚野川の合流点より約1km南の河岸段丘上に位置する。今から約1万3千年前の後期旧石器時代の終末の遺跡であり、昭和32年に星野芳郎・井口通泰の両氏によって発見された。以来、日本の旧石器研究のパイオニアである芹沢長介氏を中心に3度の発掘調査が行われ、細石刃・細石刃核・彫刻刀形石器・搔器など多くの石器が出土した。特に彫刻刀形石器の出土量は非常に多く、これまでの発掘調査で出土したものに採集品等をあわせると千点以上となり、これだけ多くの彫刻刀形石器を出土する遺跡は世界的にみても稀である。

また、荒屋遺跡で出土した細石刃核・彫刻刀形石器に類似した石器は、日本では北海道・東北地方・中部地方日本海側を中心に分布し、海を越えたシベリア地方にも多くみられる。後期旧石器時代の環日本海地域の交流を知るうえで貴重な資料である。



あとがき 昨年もいくつかの遺跡がマスコミにセンセーショナルな話題を提供しましたが、それ以外にも多くの遺跡が県内で調査されたことが「発掘調査届出一覧」から理解していただけるものと思います。普遍的な資料の蓄積が新たな歴史像を造り、明日への指針を示してくれるものと考え、これからも埋蔵文化財の調査に励んでいきたいと思ひます。(か)

埋文にいがた No. 6

発行 新潟県埋蔵文化財調査事業団
 〒951 新潟市一番堀通町5923番地46
 TEL (025) 223-5642
 FAX (025) 228-1762
 印刷 有限会社 双葉印刷